

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「共に学び、たくましく、豊かな心」をもった生徒を育てます。
 (知・開) (体) (徳・公)
 ・基礎・基本を身につけ、主体的に考え・学び、社会の動向をとらえ、生き抜く知恵を育てます。(知)
 ・自分を律し、人を思いやる優しい心を育てます。(徳)
 ・自ら健康を保持増進し、心身ともにたくましく生きる力を育てます。(体)
 ・地域や社会のため、自分の役割や働くことの意義を理解し、行動する力を育てます。(公)
 ・多様性を尊重し、コミュニケーションを通して、共に新たな価値を見出す力を育てます。(開)

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

・基礎・基本、主体的に考え・学ぶ、社会の動向をとらえる、生き抜く知恵
 ・自分を律す、人を思いやる優しい心
 ・自ら健康を保持増進する、心身ともにたくましく生きる力
 ・自分の役割や働くことを理解し、行動する
 ・多様性を尊重する、コミュニケーション力、共に新たな価値を見出す力

具体化した資質・能力

中期取組目標

* 生徒一人ひとりが自他を尊重し、心豊かに向上心を持って学ぶことができる学校を目指します。
 ○向上心を持ち主体的に学ぶことができる心身共にたくましい生徒を育むため、授業力の向上に努めます。
 ○基本的な生活習慣を身につけ、自他を尊重し円滑なコミュニケーションを図りながら、集団の中で自分なりに活躍することができる生徒を育むため、組織的な生徒理解と生活指導に努めます。
 ○地域や世界の人々と環境を大切にすることをもち、進んで社会に貢献する意欲を持つ生徒を育むため、SDGsの視点からの指導に努めます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①各教科が主体的・協働的な学びを積極的に取り入れた授業形態を展開したり、ICTを効果的に活用した授業展開したりすることで、生徒の資質能力の育成を図る。 ②教員相互の授業見学及び研究授業や校内授業研を行う。また、小中一貫教育推進ブロックで授業研を行うことで小中のつながりを大切にする。
担当	学習指導部

学力向上に関わる本校の状況

全学年とも教科の理解を深める努力を各教科において高い意識をもっている。2年次に生じる理解の壁をなくすために一年次に各教科で習得した知識や技能を活かせるような授業展開が必要不可欠である。また、主体的・協働的な授業形態をこころがけている。

今年度の目標

各教科が主体的・協働的(伝える力)など学びを積極的に取り入れた授業形態を展開する。また、ICTを効果的に活用した授業内容の向上を目指す。

目標を実現するための具体的行動プラン

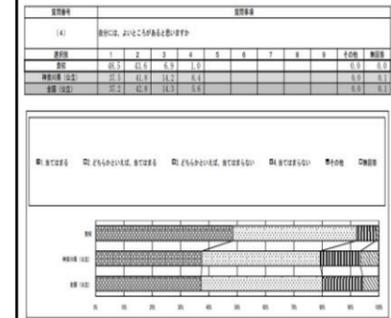
上半期	各教科において主体的・協働的(伝える力)の学びの場面でICTを活用したプレゼンテーションの授業展開の向上を目指す。また、活動において生徒が答えを導き出せるようにプロセスの中で伝わりやすい助言等の支援を徹底する。
下半期	各教科において、主体的にICTを活用したプレゼンテーションの授業展開や協働的(伝える力)の学びの場面で、生徒が自ら答えを導き出せるようにプロセスの中で伝わりやすい助言等の支援を徹底する。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
人権教育	①人権作文発表会の取組を通して、一人ひとりの考え方や捉え方に違いがあることを知るとともに、自らの豊かな生き方につなげることができるよう、多様性を尊重し他者とのつながりを大切にしようとする姿勢を育む。②道徳の授業にグループディスカッションや協働学習を積極的に取り入れることで、他者の意見や考えに触れ合いながら自らの学びを深めていこうとする態度を育む。③道徳の授業にICTを取り入れながら、対面での自己表現が困難な生徒や教室での学習に参加できない生徒なども参加できるように、誰一人取り残さない授業づくりを心がける。
担当	道徳推進担当

豊かな心に関わる本校の状況

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果から、本校の生徒の特長として、「自分には、よいところがあると思いますか」という設問について、全国や神奈川県の結果と比較しても高い状況があるため、自己有用感を持っている生徒が多いと考えられる。そのために、他者をいたわる気持ちをもつことができる生徒が多い。お互いを認め合うことのできる集団に育成することができると考えられる。



今年度の目標

より多くの他者との関りを通して、様々な考え方や捉え方があることを知り、多様性を尊重し、つながりを大切にしようとする人の育成
 思いやりをもって人と接すると共に、家族をはじめ、多くの人に支えられていることに感謝できる心の育成

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	修学旅行に向け、平和に対する理解と大切さ、平和であることへの感謝の気持ちをもたせる。WFPのフードプロジェクトを通して、世界の現状を知り、他者を思いやる気持ちをもたせる。
下半期	修学旅行や平和学習プログラムを通しての学びや、人権作文発表会を通してお互いの人権感覚についての考えを聞くことで自身の学びを深め、他者を思いやる気持ちや平和の重要性を意識して学校生活を送り、自らの進路選択の参考にできるようにする。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	①保健体育の授業を通して、生徒一人ひとりがいつでもどこでも自ら進んで他者との関わりをもち、運動に取り組めるように、協働的な学びの場を積極的ににつくり、基礎基本となる知識・技能を身につけた上でさらなる発展を目指す。 ②様々な行事や活動を通して、望ましい生活習慣や楽しく運動する習慣を身につけさせる環境を整え、心身の健康を保持増進しようとする意識を育てる。
担当	保健体育・保健安全指導部

健やかな体に関わる本校の状況

①運動をすることが好きな生徒は比較的多い。しかし、特定の仲間としか関われない生徒や、上手にペアを組めない生徒も見受けられるので、他者と上手に関わりながら、学び合うことの大切さを指導し、さらなる技能の向上につなげたい。

今年度の目標

①他者と関わりながら運動に親しみ、健康の保持増進と技能の向上を目指すことができる生徒を育てる。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	①相互学習を行う機会を授業の中に積極的に取り入れる。自由にペア・グループ決めを行わせたり、こちらでペア・グループを決めたりするなど、様々な生徒と関わったり、技能が向上が目指せたりする授業を行う。
下半期	①様々な生徒との関わり合いを通して、互いの健康を高め合う助言ができるようにし、さらなる技能の向上につなげる。